

新聞記事の活用と読み物としての医学図書

五十嵐 よしゑ

関西国際大学医療経営学科 非常勤講師

元 福井県立病院病歴管理室 主任

分類小委員会委員

庭先の樹木を仰ぐと、夏みかん、りんごの木に混じってラ・フランスに1個の実が付いていました。実生から育て10年余で。木々や草花の観察は私の至福のひとつです。

今日の社会では必要とする情報は、インターネットをはじめ、TV、ラジオ、またスクーリングで、研修会でと、得ることができます。診療情報管理士養成課程は科目が多く、病院に勤務されていない方にとっては、すべてが異世界と映るではと思います。スクーリングや、レポート記載は、消化する事が手一杯で学ぶ楽しみの余裕がないのではと推測します。そこで疾病を学ぶ至福の一方法として、新聞記事を活用してはいかがでしょうか。

昭和46年1月診療情報管理室（当時は病歴室）開設以来から新聞の記事をスクラップして利用していました。少し古いデータですが、98年～99年の1年間の医療に関する記事は、3紙で年間1209件ありました。開示やDRG、O-157、介護保険と今実施されていることが当時は先端の記事でした。最新医療、疾病の紹介が819件ありました（67.7%）。新聞における医療記事の特徴は、その時代の最新情報、疾病の背景、患者推計、経過、治療方法など、詳細に一般読者が理解できる言葉で記載されている事です。記事をICDの大分類等にスクラップし、医学知識の楽しみと、またコードの結びつけで、より身近に感じます。

昨年1月～3月にかけて、鳥インフルエンザが社会問題になったことは記憶に新しい事と思います。人類の歴史は疫病の歴史でもありました。約100年前のパスツールやコッホ等による研究成果により細菌による疫病が解明され、現在はほぼ制圧されました。しかしウイルスに対しては、治療法が細菌のように確立していません。多くの研究者が日夜研究されていますが。この鳥インフルエンザは鳥から人間に感染が確立すると、遺伝子が変化し〈遺伝子連合〉スペイン風邪のような猛威を奮い、免疫ができる間もなく、またワクチンの対応もできないうちに瞬く間に感染が広まってしまうそうです。新聞の一記事から、次々と連鎖し、疑問に対して調べると、別の世界が広がります。HIVによるエイズ問題、西ナイル熱など新聞記事は話題に事欠きません。HIVのファミリーはレトロウイルスで、遺伝子を逆転写し増殖する。成人T細胞白血病ウイルスに関連して、ウイルス抗体から日本人のルーツがわかるようです。アフリカを発して中国南部を経て沖縄から九州へと渡り本州を通過して北海道まで放散していった人類の子孫が日本人の原形になっている〈縄文人〉。在郷軍人病については、日本に関係ないと思っていましたが、院内感染としてレジオネラ症がクローズアップされました。西ナイル熱も、日本人に感染が確認されたと新聞に報道されました。外国も日帰りが可能な時代になり、世界各国の感染情報や、渡航歴などは疾病の診断に重要な事項です。診療情報管理士として、新聞からの情報を元に、読み物としての医学図書でさらに肉付けして、疾病の命名、どのような研究者が関わられたかを知る事は、興味の増幅で記憶が確実になります。平成17年7月第2回社会保障審議会統計分科会 疾病、傷害および死因分類部会でICD-10 2003改定が示されました。WHOの修正で新規疾病が15項目あります。Uコードの新設でSARSや、耐性菌が掲載されました。受講生の皆様、まずは新聞のスクラップをはじめましょう。

最後に興味が尽きない医学図書を1冊紹介します。根路目国昭著「驚異のウイルス」